静岡労研ニュース NO.168 2025年4月 静岡県労働研究所

第196回定例研究会　3月19日(水)　於:国労会館およびZoom

主権者は主催者から

めんどうくささを引き受け、楽しむ
つくって、食べて、つながって

報告：橋本　純　氏　（静岡高教組　書記長）

○いつだって「エバーグリーン」、いつまでも「エバーグリーン」

・2003年、「平和をつくるために地元で何かできないか」と「エバーグリーン」の活動を立ち上げた。教員、市民、高校生、大学生、若者が実行委員会を結成し、これまでに写真展・映画会・講演会を行なってきた。

・どんな社会を構想するのか

「役立たず」「バカ」「無知」と言葉に出さないまでもどこかで感じてしまいがちだが、これらの言葉は他人に向ける言葉ではなく、自分自身に対して向ける言葉だ。「なんと自分は無知でバカで、役立たずだったのだろう…」と自身を客観視し、自省・自制するために。

他者をさげすむ言葉になってしまったのは、競争と選別で差別に駆り立て、報われないのは自分の頑張りが足りなかった自己責任だと思わせる文化の中だから。そのせいで、どれだけ自分が苦しんできたのか、他者を苦しめ、苦しんでいる人たちに無関心で来てしまったか。

そんな社会ではなく、楽しくおもしろがって自分の能力を高め、それを自分のためだけでなく世界をより良くするために使うことに喜びを感じる世界にしたいもの。「生きているだけでいい」「あなたが、そこにいてくれるだけでうれしい」とお互いに言いあえる社会にしたいものだ。

・めんどうくささをひきうけ、楽しむ

注文するだけのお客さんは気楽だ。めんどうなことは人任せにしたい。しかし、強力な指導者を求めたり、指示されることを待っているようではファシズムを生む。

学校には自治をはじめ主権者を育てる仕組みがたくさんあったはず。その再生のためにも、作って食べてつながってと、手作りの楽しさを味わうことから、始めたいものだ。だから、「主権者は主催者から」。

○空耳（そらみみ）子ども会

・空耳子ども会は、1990年、東京から藤枝に移転し、翌年、我が子の小学校のＰＴＡ役員として子ども会を担当することになった時、勤務校でもボランティアサークルの顧問となり、高校生を遊びのリーダーとして誘ったのが設立のきっかけ。「一緒にやろうと声をかけてくれたのがうれしかった」と言う静岡大学に進学した生徒が、学内でサークルとして「空耳子ども会」を立ち上げ、１０人くらいの学生が遊びに来てくれるようになった。「空にも耳があるんだ、君のつぶやきもきっと誰かが聞いてくれている」という詩も作成して。

共にＰＴＡ役員をやった方から土地を提供してもらい、米、麦、そば、芋などの栽培と収穫、それを使った昼食づくりを軸とし、自然の中での遊びを中心に活動。合言葉は「子どもたちにゆたかな時間と空間を、若者たちに手ごたえのある活動を」「つくって食べてつながって。めんどうくささを引き受け楽しむ」

・「楽しむ」ことの再認識

空耳子ども会では、役割り分担はほとんどしない。何もしなくても、できなくてもよい。しかしいつのまにか誰かが、かまどの火の番をしたり、てんぷらを揚げてくれている。楽しそうにやっている姿を見て、お手伝いをしてみたい、自分でもやってみたいと思ってくれればよい。

学びや仕事も、「好きでやっているわけではない、仕方なくやむを得ずやっている」と考えると危険だ。文化として継承されないどころか、責任逃れの口実にもなるし、自己利益の追求になるばかりか、我慢・忍耐を他にも強制し、できない人を非難・攻撃しかねない。

求める社会も、人任せ行政任せにして要求するだけでは実現しない。世界や社会は簡単には変わらないが自分のまわりに実現できるはず。

＊連絡先：〒420-0851　静岡市葵区黒金町55番地　静岡交通ビル3階301号（静岡県評内）
静岡県労働研究所　TEL　054-287-1293　FAX　054-286-7973
メール roudouadv@cy.tnc.ne.jp　ホームページ http://shizuokarouken.sakura.ne.jp/index.html